

Driving method and driving circuit of piezoelectric transformers

Patent Number: ☐ US6087757
Publication date: 2000-07-11
Inventor(s): HONBO NOBUAKI (JP); KAWASHIMA SHINGO (JP)
Applicant(s):: NIPPON ELECTRIC CO (JP)
Requested Patent: ☐ JP11008087
Application Number: US19980098548 19980617
Priority Number(s): JP19970162781 19970619
IPC Classification: H01L41/08
EC Classification: H01L41/04B, H05B41/282M2
Equivalents: TW418591

Abstract

A driving circuit of the present invention includes first and second piezoelectric transformers 12, 14 for outputting a voltage at a secondary terminal which is input from a primary terminal utilizing a piezoelectric effect, frequency control means 21 for outputting a frequency signal for operating the first piezoelectric transformer 12 at a required frequency voltage, phase reversing means 16 for reversing a phase of the frequency signal by 180 degrees, driving circuits 13, 15 for applying a frequency voltage to each of the piezoelectric transformers 12, 14 based on these frequency signals of which phases are different from each other by 180 degrees, a discharge tube 11 in which an output of the first piezoelectric transformer 12 is applied to a first input terminal and an output of the second piezoelectric transformer 14 is applied to a second input terminal, a circuit 20 for controlling a voltage of the first piezoelectric transformer 12 so that a current flowing in this discharge tube becomes to be constant, and circuits 22, 17 for controlling a voltage input to the second piezoelectric transformer 14 so that output voltages of the first and second piezoelectric transformers become to be the same voltages.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(11)特許出願公開番号

特開平11-8087

(43)公開日 平成11年(1999)1月12日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

FI

H O 5 B 41/24

H O 5 B 41/24

$$\mathbf{z}$$

H0 2M 7/48

H0 2M 7/48

P

11/00

11/00

審査請求 有 請求項の数 4 OL (全 9 頁)

(21)出願番号 特願平9-162781

(22)出題日 平成9年(1997)6月19日

(71)出題人 000004237

日本電気株式会社

東京都港区芝五丁目7番1号

(72)発明者 本保 信明

東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気株
式会社内

(72)発明者 川島 進吾

東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気株
式会社内

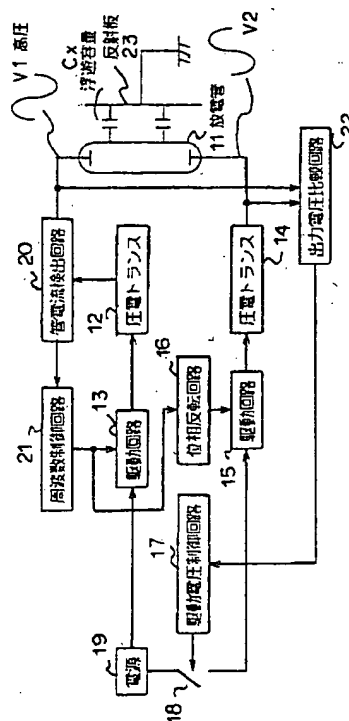
(74)代理人 弁理士 鈴木 章夫

(54)【発明の名称】 圧電トランスの駆動方法及び駆動回路

(57) 【要約】

【課題】 放電管を点灯する場合に、放電管と反射板の間にできる浮遊容量により放電管から反射板に流れる電流によって生じる輝度むらを防止する。

【解決手段】 圧電効果を利用して１次端子から入力した電圧を２次端子に出力する第１及び第２の２つの圧電トランス１２、１４と、第１の圧電トランス１２を所要の周波数電圧で動作させるための周波数信号を出力する周波数制御回路２１と、前記周波数信号を１８０度位相反転する位相反転回路１６と、これら１８０度位相が異なる周波数信号に基づいて各圧電トランス１２、１４にそれぞれ周波数電圧を印加する駆動回路１３、１５とを備える。さらに、第１の圧電トランス１２の出力が第１の入力端に印加され、第２の圧電トランス１４の出力が第２の入力端に印加される放電管１１と、この放電管に流れる電流が一定となる様に第１の圧電トランス１２の電圧を制御する回路２０と、第１及び第２の圧電トランスの出力電圧が同一電圧になるように第２の圧電トランス１４に入力される電圧を制御する回路２２、１７を備える。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 圧電効果を利用して 1 次端子から入力した電圧を 2 次端子に出力する第 1 及び第 2 の 2 つの圧電トランスを備え、前記第 1 の圧電トランスを所要の周波数電圧で駆動し、前記第 2 の圧電トランスを前記第 1 の圧電トランスと周波数は同一で位相が 180 度異なる周波数電圧で駆動し、前記第 1 の圧電トランスの出力を放電管の第 1 の入力端から印加し、前記第 2 の圧電トランスの出力を前記放電管の第 2 の入力端から印加して前記放電管を点灯することを特徴とする圧電トランスの駆動方法。

【請求項 2】 圧電効果を利用して 1 次端子から入力した電圧を 2 次端子に出力する第 1 及び第 2 の 2 つの圧電トランスと、前記第 1 の圧電トランスを所要の周波数電圧で動作させるための周波数信号を出力する周波数制御手段と、前記周波数制御手段からの周波数信号を 180 度位相反転する位相反転手段と、前記 180 度位相が異なる周波数信号に基づいて前記各圧電トランスにそれぞれ周波数電圧を印加する駆動回路手段とを備え、前記各圧電トランスの出力をそれぞれ放電管の対向する入力端に印加することを特徴とする圧電トランスの駆動回路。

【請求項 3】 圧電効果を利用して 1 次端子から入力した電圧を 2 次端子に出力する第 1 及び第 2 の 2 つの圧電トランスと、前記第 1 の圧電トランスを所要の周波数電圧で動作させるための周波数信号を出力する周波数制御手段と、前記周波数制御手段からの周波数信号を 180 度位相反転する位相反転手段と、前記 180 度位相が異なる周波数信号に基づいて前記各圧電トランスにそれぞれ周波数電圧を印加する駆動回路手段と、前記第 1 の圧電トランスの出力が第 1 の入力端に印加され、前記第 2 の圧電トランスの出力が第 2 の入力端に印加される放電管と、前記放電管に流れる電流が一定となる様に前記第 1 の圧電トランスの駆動周波数を制御する手段と、前記第 1 及び第 2 の圧電トランスの出力電圧が同一電圧になるように前記第 2 の圧電トランスに入力される電圧を制御する手段とを備えることを特徴とする圧電トランスの駆動回路。

【請求項 4】 圧電効果を利用して 1 次端子から入力した電圧を 2 次端子に出力する第 1 及び第 2 の 2 つの圧電トランスと、前記第 1 の圧電トランスを所要の周波数電圧で動作させるための周波数信号を出力する周波数制御手段と、前記周波数制御手段からの周波数信号を 180 度位相反転する位相反転手段と、前記 180 度位相が異なる周波数信号に基づいて前記各圧電トランスにそれぞれ周波数電圧を印加する駆動回路手段と、前記第 1 の圧電トランスの出力が第 1 の入力端に印加され、前記第 2 の圧電トランスの出力が第 2 の入力端に印加される放電管と、前記放電管の輝度が一定となる様に前記第 1 の圧電トランスの駆動周波数を制御する手段と、前記第 1 及び第 2 の圧電トランスの出力電圧が同一電圧になるよう

に前記第 2 の圧電トランスに入力される電圧を制御する手段とを備えることを特徴とする圧電トランスの駆動回路。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は圧電効果を用いて直流電圧源から所定の電圧に変換する圧電トランスの駆動技術に関し、特に圧電トランスを使用して放電管を効率よく点灯させる為の電源回路を構成するための圧電トランスの駆動方法と駆動回路に関する。

【0002】

【従来技術】従来、放電管を点灯するための電源回路として、圧電トランスを用いた駆動回路が提案されている。このような圧電トランスを駆動する技術として、特開平 8-275553 号公報に記載の技術のように、全波の正弦波で圧電トランスを駆動し、この圧電トランスの出力を負荷の一方から入力する駆動回路が提案されている。この駆動回路は図 4 に示す様に、圧電トランス 31 の 2 つの 1 次電極に 2 つのオートトランス 33、34 の 2 次側を接続し、オートトランス 33、34 の 1 次側を電源電圧 V_{dd} に接続したものである。更に、オートトランス 33、34 の中間端子にスイッチングトランジスタ 37、38 を接続し、負荷 32 に流れる電流を検出して周波数制御回路 35 により、圧電トランス 31 の駆動周波数を決定し 2 位相駆動回路 36 に入力する。この 2 位相駆動回路 36 からの出力により、スイッチングトランジスタ 37、38 を圧電トランス 31 の共振周波数で交互にスイッチングさせるものである。このオートトランス 37、38 の 1 次側と 2 次側のインダクタンスと、圧電トランス 31 の等価入力容量で共振回路を構成するように設定しておく。そこで、同図示す 2 相の半波正弦波を発生させ、この 2 つの半波正弦波を圧電トランス 31 の 2 つの 1 次側電極 31a、31b に交互に印加する事によって、圧電トランス 31 の 1 次側電極には正弦波が印加されたことになる。このようにして圧電トランス 31 が負荷 32 に昇圧された出力電圧を印加することが出来るものである。また、他の従来技術として特開平 8-33349 号公報では半波の正弦波、特開平 8-47265 号公報では矩形波を圧電トランスの 1 次側に入力してその出力を負荷の一方に入力する技術が示されている。

【0003】一方、電磁トランスを使用して冷陰極管などの放電管を点灯させ、更に放電管の輝度むらを少なくする駆動回路としては、特開平 6-20783 号公報にその技術が開示されている。これは図 5 に示す様に、電流制御回路 42 及びパルス方向制御回路 45 に端子 41 から、例えば映像信号の水平同期信号の様な周期性信号が入力される。また、電流制御回路 42 からの出力がスイッチング素子 43 のゲートに入力される。このスイッチング素子 43 のソース側は接地され、ドレイン側はト

ランス 44 の第 1 の一次巻き線 44a の一端及び第 2 の一次巻き線 44b の他端に接続されている。パルス方向制御回路 45 の出力は水平同期信号の所定周期毎に反転するスイッチング信号 Q とその逆相の信号 \bar{Q} であり、Q と \bar{Q} がそれぞれトランジスタ 48a のベース及び 46b のベースに入力される。トランジスタ 46a 及び 46b のコレクタは電源に接続されエミッタがそれぞれ第 1 の一次巻き線 44a の他端と第 2 の一次巻き線の一端に接続されている。トランス 44 の二次巻き線 44c の一端は放電管 47 の一方の電極、二次巻き線 44c の他端は放電管 47 の他方の電極に接続される。

【0004】この回路構成において、端子 41 から図 6 の (a) の様な信号が入力された場合、電流制御回路 42 からは図 6 (b) の様な信号がスイッチング素子 43 のゲートに供給され、パルス方向制御回路 45 からは図 6 の (c)、(d) の様な図 6 の (a) の信号の中間の位置で反転するスイッチング信号が形成される。図 6

(c) の信号がトランジスタ 46a のベースに図 6

(d) の信号がトランジスタ 46b のベースにそれぞれ供給される事により、第 1 の一次巻き線 44a と第 2 の一次巻き線 44b には交互に電流が流れる。第 1 の一次巻き線 44a と第 2 の一次巻き線 44b は互いに逆方向に巻かれていることから、トランス 44 の二次巻き線 44c の一端及び他端間には図 6 (e) の様な所定周期毎に反転するパルス状の電圧が発生し、この電圧が放電管 47 の一方及び他方に印加される。

【0005】この他に、液晶パネルのバックライトの輝度むらを低減する従来技術としては、特開平 2-97918 号公報に技術が開示されている。図 7 はその回路図であり、液晶パネルの裏面に行伸長方向に配置された M 個 (M は 1 以上の整数) の放電管 TM にそれぞれコンバータ 51、低周波パルス発生器 52、管制御信号発生器 53 が設けられている。回路構成は、放電管 T1 にコンバータ 51 が接続され、例えば図 8 (c) の様な周期 THF の高周波電圧の矩形波を放電管 T1 に印加できるように DC 電圧 VO が入力されている。コンバータ 51 には、放電管 T1 の輝度の変化を生起する図 8 (b) の様な低周波制御信号 VBF が入力される。低周波制御信号 VBF は、放電管 T1 に印加される高周波電圧 VHF を変調する調整可能なチョップ速度 TBF/Tm を持つ低周波周期パルスである。また低周波制御信号 VBF は、管制御信号発生器 53 から入力される制御信号 ST に基づいて低周波パルス発生器 52 により発生される。信号 ST は DC 電圧であり、レベル変化が可能である。また信号 ST は、積分器 54 を介して比較器 55 の第一入力に入力される。比較器 55 の第 2 入力には、図 8 (a) に示す様なスロープ発生器 56 の出力信号 VS が入力される。積分器 54 の出力電圧 Vm がスロープ信号 VS と比較され図 8 (b) の様な低周波制御信号 VBF を発生させる。電圧 ST が変化するとこれに応じて電圧 Vm が

変化し、低周波矩形波信号 VBF のパルス幅 Tm が変化する。この信号 VBF により放電管 T1 に印加する電圧 VHF の制御を行う。この制御により図 8 (d) の様に放電管 T1 の輝度 LT が経時的に変調される。また放電管 T1 の平均輝度は図 8 (d) の LTm で表される。図 9 (a) から図 9 (d) は、制御信号 ST が変化する場合は図 8 (a) から図 8 (d) と同じ信号を示す。図 9 から変調時間 Tm の値を変化させる事により、放電管 T1 に印加する電圧 VHF の持続時間を変化させている。この制御を液晶パネルの裏面に行伸長方向に配置された M 個の放電管 TM について行い、液晶パネル全体の輝度むらを低減している。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】以上の従来技術における第 1 の問題点は、負荷が放電管の場合に前記の特開平 8-275553 号、特開平 8-33349 号、特開平 8-47285 号の各公報の様に圧電トランスを駆動し、放電管の片側だけに高電圧を印加して放電管を点灯させた場合、放電管の高電圧を印加されていない低圧側は輝度が低くなり、放電管の高圧側と低圧側で輝度むらが生じることである。この現象は、電磁トランスでも同様であり、特開平 6-20783 号の様に放電管を点灯しても起こる。また、例えば特開平 2-97916 号の様に液晶パネルに使用される放電管に片側から高圧を入力し、所定数の放電管に印加する高圧の印加時間を変化させて液晶パネルの輝度を一定に保つように制御した場合にもこの現象は起こる。その理由は、放電管と放電管の反射板との間に形成される浮遊容量によって、放電管に流れている電流が反射板に流れ込んでしまう為である。冷陰極管が直下型に配置されているバックライトの構造は、図 10 (a) の様になっている。従って、図 10 (b) の様に放電管と放電管の反射板との間には浮遊容量が形成されることになり、放電管から反射板に電流が流れ込んでしまう事になる。この為、放電管の低圧側では高圧側に比べて流れている電流が小さくなり輝度も低くなる。

【0007】また、第 2 の問題点は、放電管の片側から高圧を入力した場合、放電管を効率よく点灯させることができない事である。その理由は、放電管に印加される電圧が高くなると放電管と反射板の間で形成される浮遊容量に流れ込む電流が多くなる為である。浮遊容量の全体の容量値を C、放電管に印加される電圧を V、浮遊容量に電流が流れ込むことによってこの浮遊容量を充放電するエネルギーを W とすると (1) 式の様な関係になる。
$$W = (1/2) \times C \times V^2 \quad \dots (1)$$

(1) 式に示す様に浮遊容量に充放電するエネルギーは、放電管に印加される電圧の 2 乗に比例し、また、放電管の抵抗成分により、放電管の印加電圧が高くなるとこの浮遊容量を充放電する無効電力が増加する為、この電圧の出力側の損失も大きくなる。

【0008】第3の問題点は、電磁トランスに換えて圧電トランスを使用した場合、放電管の両側から高圧を入力するには2つの圧電トランスが必要となるが、2つの圧電トランスを同一の駆動周波数で駆動すると同じ出力電圧が出せないことがある。その理由は、放電管の両側から入力される2つの圧電トランスの駆動周波数は同一でなければならないが、図11に示すように、圧電トランスT1、T2の各駆動周波数とその昇圧比にばらつきがあると、一般に、圧電トランスはQが高いので、共振周波数のばらつきがあると、わずかなばらつきでも昇圧比が大きく異なってしまう為、放電管の駆動電圧がアンバランスになってしまう事である。

【0009】本発明の目的はこれらの問題を解決し、圧電トランスを使用して放電管の輝度むらを低減し、放電管を効率よく点灯させる為の駆動回路及び駆動方法を提供することにある。

【0010】

【課題を解決するための手段】本発明の駆動方法は、圧電効果を利用して1次端子から入力した電圧を2次端子に出力する第1及び第2の2つの圧電トランスを備えており、第1の圧電トランスを所要の周波数電圧で駆動し、第2の圧電トランスを第1の圧電トランスと周波数は同一で位相が180度異なる周波数電圧で駆動する。そして、第1の圧電トランスの出力を放電管の第1の入力端から印加し、第2の圧電トランスの出力を前記放電管の第2の入力端から印加して前記放電管を点灯することを特徴とする。

【0011】また、本発明の駆動回路は、圧電効果を利用して1次端子から入力した電圧を2次端子に出力する第1及び第2の2つの圧電トランスと、第1の圧電トランスを所要の周波数電圧で動作させるための周波数信号を出力する周波数制御手段と、前記周波数制御手段からの周波数信号を180度位相反転する位相反転手段と、前記180度位相が異なる周波数信号に基づいて前記各圧電トランスにそれぞれ周波数電圧を印加する駆動回路手段とを備える。さらに、前記第1の圧電トランスの出力が第1の入力端に印加され、前記第2の圧電トランスの出力が第2の入力端に印加される放電管と、前記放電管に流れる電流が一定となる様に前記第1の圧電トランスの電圧を制御する手段と、前記第1及び第2の圧電トランスの出力電圧が同一電圧になるように前記第2の圧電トランスに入力される電圧を制御する手段とを備える。あるいは、前記放電管の輝度が一定となる様に前記第1の圧電トランスの駆動周波数を制御する手段と、前記第1及び第2の圧電トランスの出力電圧が同一電圧になるように前記第2の圧電トランスに入力される電圧を制御する手段とを備える。

【0012】このように、圧電トランスを2つ使用し、一方の圧電トランスは、放電管の輝度が一定となる様に放電管の輝度或いは放電管に流れる電流値を検出して得

られる周波数電圧が印加され、他方の圧電トランスは一方の圧電トランスの出力電圧と周波数が同一で位相が180度異なった出力電圧を出力する様な周波数電圧が印加されるので、これら圧電トランスから出力される高圧を放電管の異なる入力端にそれぞれ入力することにより、放電管から浮遊容量に流れ出る電流、及び放電管に浮遊容量から流れ込む電流の量を減らすことが可能となり、放電管の輝度むらが低減できる。

【0013】

【発明の実施の形態】次に、本発明の実施形態を図面を参照して説明する。図1は本発明の圧電トランス駆動回路の第1の実施形態の回路図である。同図において、放電管11の一方の入力端には圧電トランス14の出力側が接続され、他方の入力端には管電流検出回路20を介して圧電トランス12の出力側が接続される。前記各圧電トランス14、12はそれぞれ電源19に接続された駆動回路15、13によって駆動される。そして、駆動回路13は周波数制御回路21の出力により制御され、駆動回路15は前記周波数制御回路21の出力を位相反転回路16により反転された出力により制御される。また、前記各圧電トランス14、12の出力は出力電圧比較回路22で比較され、この比較結果により駆動電圧制御回路17が前記電源19に接続されたスイッチング素子18をオン、オフし、前記駆動回路15への電源供給を制御する。なお、同図において、V1は放電管11の一方に入力される高圧、V2は放電管11の他方に入力される高圧であり、高圧V1とV2は周波数は同一で位相が180度異なる。また、23は反射板であり、放電管11との間に浮遊容量Cxが存在する。

【0014】この構成によれば、スイッチング素子18がオンされているときには、電源19により各駆動回路13、15がそれぞれ圧電トランス12、14を駆動し、その出力側から放電管11に電圧を供給する。このとき、前記放電管11に流れる電流は管電流検出回路20に流れ込むため、この管電流検出回路20で放電管11に流れる電流を検出し、検出した値を周波数制御回路21に入力する。通常圧電トランスは圧電トランスを駆動する周波数によって昇圧比が決定される。この為、周波数制御回路21は、放電管11に流れる電流値が任意の値で一定になるように圧電トランス12を駆動する周波数の制御を行い、圧電トランス12を駆動する周波数を持つ任意の波形を出力する。この周波数制御回路21の出力が、駆動回路13によって昇圧され圧電トランス12に入力される。圧電トランス12の出力が管電流検出回路20に入力され、更に、放電管11に印加される。したがって、放電管11の一方に入力する圧電トランス12の出力は、放電管11に流れる電流値が一定になるように制御を行う。

【0015】一方、圧電トランス14の駆動周波数は圧電トランス12と同一で位相が180度異なっていない

れば放電管の輝度むらは平均化されにくくなる。この為、圧電トランス 14 を駆動する周波数は周波数制御回路 21 の出力を位相反転回路 16 によって反転し、この出力を圧電トランス 14 を駆動する駆動回路 15 に入力する。これにより、圧電トランス 12 と圧電トランス 14 は同一の周波数で駆動することができる。しかし、圧電トランスでの駆動周波数がばらつくと圧電トランス 14 の出力は非常に大きくなるか或いは非常に小さくなる可能性がある。また、圧電トランス 12 と圧電トランス 14 の出力が等しい時に放電管の輝度むらは、より良く平均化されるため圧電トランス 12 と圧電トランス 14 の出力電圧を同じにする必要がある。この為、圧電トランス 12 の出力電圧と圧電トランス 14 の出力電圧を電圧比較回路 22 により比較を行い、この出力電圧比較回路 22 の比較結果の信号を駆動電圧制御回路 17 に入力し、駆動電圧制御回路 17 によって電源 19 から駆動回路 15 に入力される電力をスイッチング素子 18 をオ

$$2 \times (1/2) \times (C/2) \times (VH/2)^2 \dots (3)$$

となり、放電管の片側から高圧を入力する場合の $1/4$ になる。

【0017】放電管に流れる電流は、特開平 6-20783 号公報に記載の放電管の入力波形である図 6 (e) の t_1 の期間では、図 3 の (a) の様になる。また、放電管の輝度は放電管に流れる電流の量に比例することから放電管の輝度も図 3 の (a) の様な分布になる。図 6 (e) の t_2 の期間では放電管に印加される高圧が t_1 の期間とは反対側であるが、放電管に流れる電流の絶対値は、 t_1 の期間と同様に図 3 (a) の様な分布になり、輝度も図 3 (a) のようになる。放電管の両端から周波数が同一で位相が 180 度異なる高圧を入力した場合には、放電管の中央が GND 電位となる為、放電管から浮遊容量に流れる電流は、図 3 (b) の様になり、放電管から浮遊容量に流れ込まない電流を考慮すると放電管に流れる電流の分布は図 3 (c) の様になるため放電管の輝度の分布も図 3 (c) の様になる。従って、放電管の両側の入力端から位相が 180 度異なる高圧を入力すると放電管の輝度むらが低減できる。

【0018】次に図 2 を使用して本発明の第 2 の実施の形態について説明する。図 2 において図 1 と等価な部分には同一符号を付してある。この実施形態では、放電管 11 の他方の入力端には圧電トランス 12 の出力側を直接入力し、また第 1 の実施形態で用いられていた管電流検出回路 20 は省略され、代わりに放電管 11 の輝度を検出する輝度検出センサ 24 と、この輝度検出センサ 24 に接続された輝度検出回路 25 が設けられ、その検出値を周波数制御回路 21 に入力している。

【0019】この図 2 の圧電トランス 12 を駆動する周波数は次の様に決定される。輝度検出用センサ 24 により放電管 11 の輝度をモニタし、この輝度検出センサ 24 からの出力を輝度検出回路 25 を介して周波数制御回

路 21 に入力する。前記したように圧電トランスは、圧電トランスを駆動する周波数によって昇圧比が決定される為、周波数制御回路 21 は、放電管 11 の輝度が任意の値で一定になるように圧電トランス 12 を駆動する周波数の制御を行い、圧電トランス 12 を駆動する周波数を持つ任意の波形を出力する。この周波数制御回路 21 の出力が、駆動回路 13 によって昇圧された後、圧電トランス 12 に入力され、更に、圧電トランス 12 によって昇圧されて放電管 11 に印加される。

【0016】この様な制御を行う事により、放電管 11 の両端には、周波数が同一で位相が 180 度異なった電圧がそれぞれ印加される事になる。放電管を点灯させるための所定の電圧を VH (V_{0-peak}) とすると、図 5 に示した技術の様に放電管の片側から高圧を入力した場合には、放電管の片側電極に VH (V_{0-peak}) を印加する事になり、放電管の低圧側が GND 電位近くになるため、浮遊容量の充放電エネルギーは (1) 式から、

$$(1/2) \times C \times (VH)^2 \dots (2)$$

となる。しかし、放電管の両入力端からそれぞれ位相が 180 度異なる高圧を入力した場合には、一方の入力端に $(1/2) VH$ ($0-peak$) が入力され、他方の入力端に $(-1/2) VH$ ($0-peak$) の電圧が印加される事になる。また、放電管の中央が GND 電位になるため、浮遊容量の充放電エネルギーは、

路 21 に入力する。前記したように圧電トランスは、圧電トランスを駆動する周波数によって昇圧比が決定される為、周波数制御回路 21 は、放電管 11 の輝度が任意の値で一定になるように圧電トランス 12 を駆動する周波数の制御を行い、圧電トランス 12 を駆動する周波数を持つ任意の波形を出力する。この周波数制御回路 21 の出力が、駆動回路 13 によって昇圧された後、圧電トランス 12 に入力され、更に、圧電トランス 12 によって昇圧されて放電管 11 に印加される。

【0020】なお、圧電トランス 14 を駆動する周波数は、前記第 1 の実施の形態と同様に決定される。また、圧電トランス 14 の駆動電圧も同様に制御される。したがって、放電管に流れる輝度及び電流の分布は図 3 に示した第 1 の実施形態と同様となり、結果として放電管の両側の入力端から位相が 180 度異なる高圧が入力され、放電管の輝度むらが低減されることになる。

【0021】

【発明の効果】以上説明したように本発明は、第 1 及び第 2 の圧電トランスをそれぞれ 180 度位相が異なる同一の周波数電圧で駆動することにより、各圧電トランスからは逆位相の高電圧が出力され、この出力電圧を放電管の両方の入力端に入力することで、放電管の輝度むらを低減することができる。また、これにより放電管に印加する電圧が G_m に対しては低くなり、効率よく放電管を駆動する事が可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明にかかる駆動回路の第 1 の実施形態の回路図である。

【図 2】本発明にかかる駆動回路の第 2 の実施形態の回路図である。

【図 3】本発明にかかる放電管の輝度むらと浮遊容量に流れる電流量を示す図である。

【図4】従来例1の駆動回路の回路図とその入力波形を示す図である。

【図5】従来例2の駆動回路の回路図である。

【図6】従来例2における信号波形図である。

【図7】従来例3の駆動回路の回路図である。

【図8】従来例3における信号波形図のその1である。

【図9】従来例3における信号波形図のその2である。

【図10】バックライトの概略図である。

【図11】圧電トランスの駆動周波数と昇圧比の関係を示す図である。

【符号の説明】

11 放電管

12, 14 圧電トランス

13, 15 駆動回路

16 位相反転回路

17 駆動電圧制御回路

18 スイッチング素子

19 電源

20 管電流検出回路

21 周波数制御回路

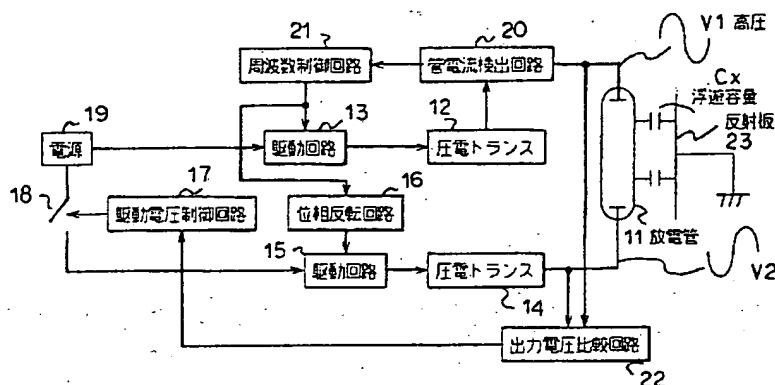
22 出力電圧比較回路

23 反射板

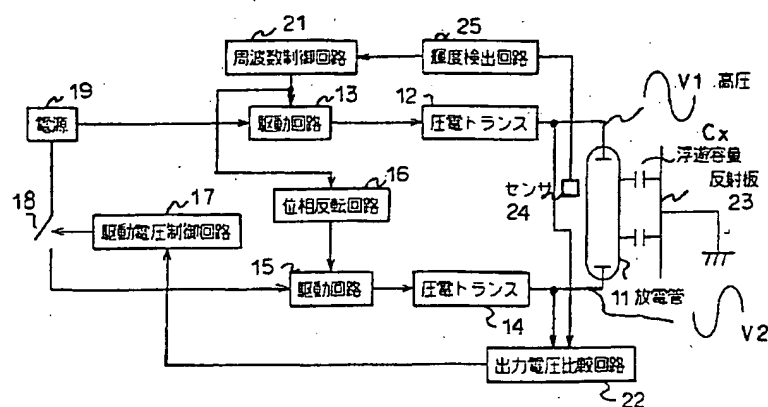
24 輝度検出センサ

25 輝度検出回路

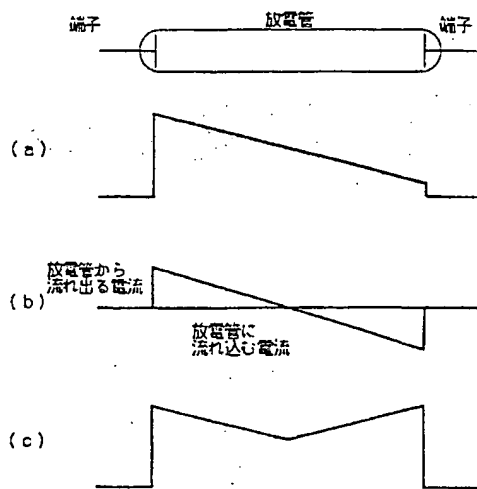
【図1】



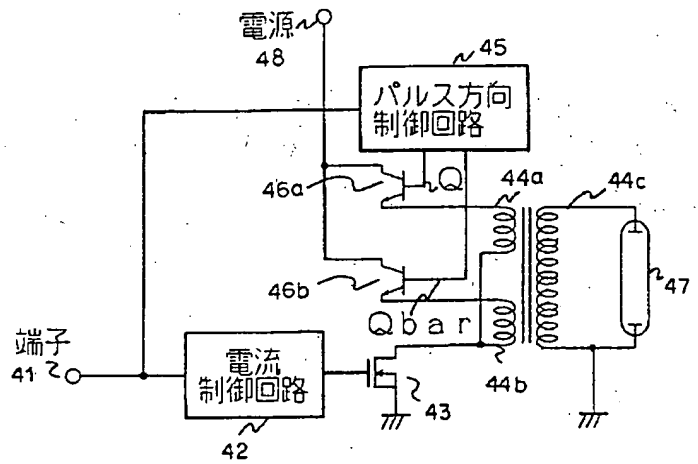
【図2】



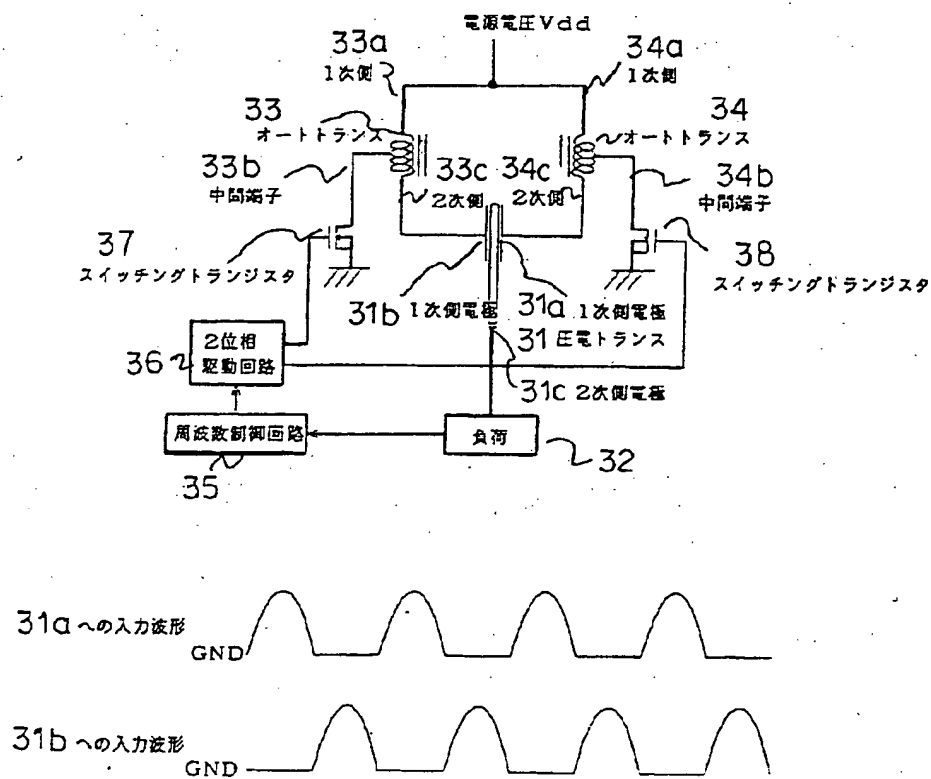
【図 3】



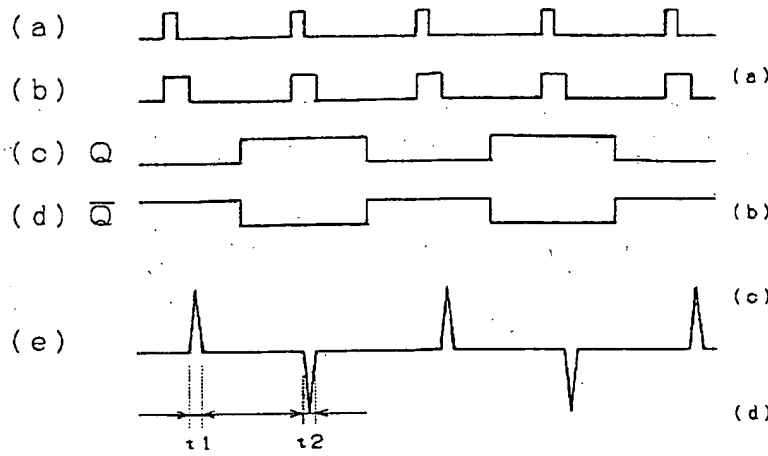
【图 5】



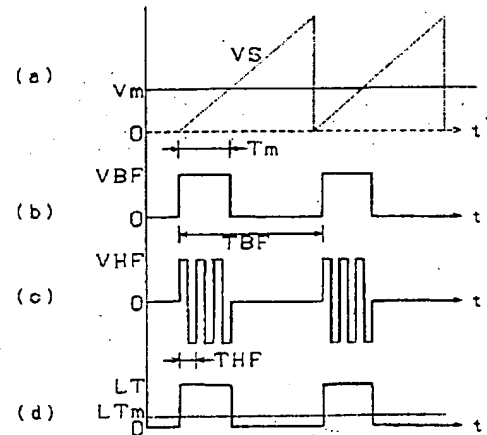
【図 4】



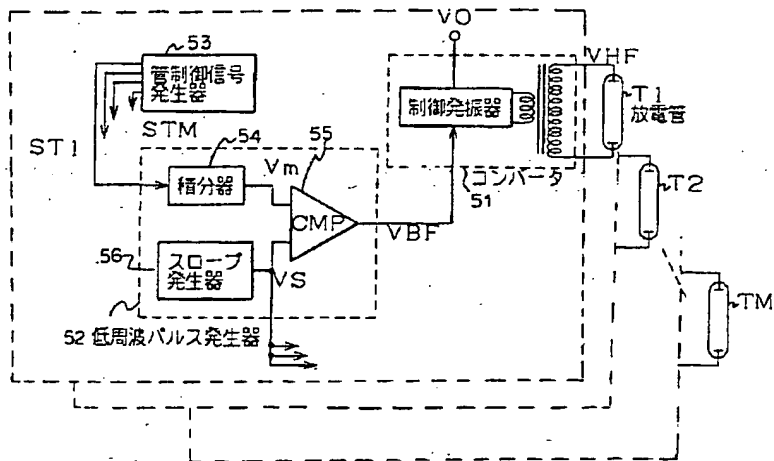
【図6】



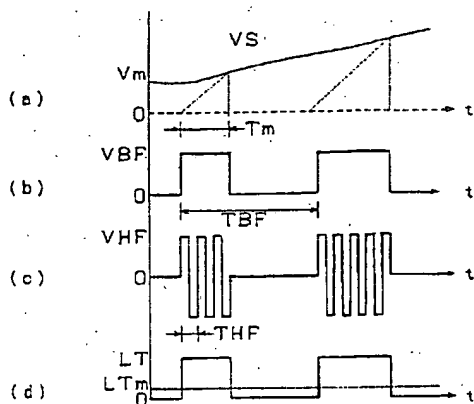
【図8】



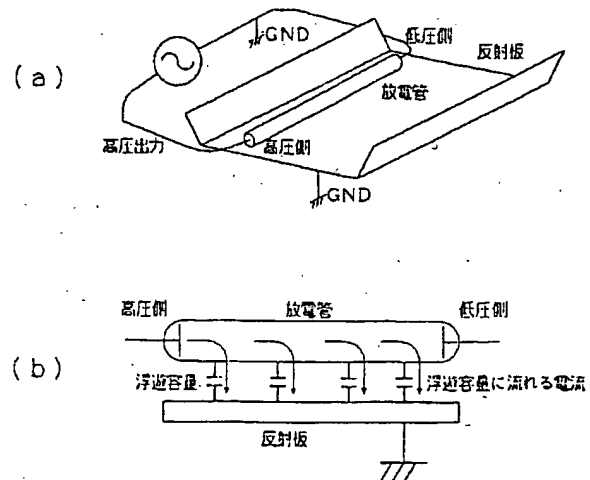
【図7】



【図9】



【図10】



【図11】

